

令和元年度全国学力・学習状況調査 新潟市の結果

学校支援課

平均正答率

学年	教科	新潟市	全国(公立)	全国との差
小学校6年生	国語	68.8%	63.8%	+5.0p
	算数	67.2%	66.6%	+0.6p
中学校3年生	国語	74.4%	72.8%	+1.6p
	数学	61.4%	59.8%	+1.7p
	英語	56.2%	56.0%	+0.3p

※全国との差は小数点以下第2位

を四捨五入した数値

※昨年度に引き続き、全数調査で実施されました。

※今年度から、知識と活用を一体的に問う調査問題になりました。英語が初めて実施されました。

○全体概要

- ・新潟市の平均正答率は、小学校、中学校とも、全ての教科で、全国の平均正答率を上回りました。
- ・全国の平均正答率との差は、昨年度とほぼ同様の傾向で安定しています。小学校国語は、他の教科に比べて、特に高い数値になりました。

各教科ごとの分析

【小学校国語について】

○・・・全国の平均正答率よりも10ポイント以上上回った設問

△・・・全国の平均正答率を上回ったが、まだ課題のある設問

▼・・・全国の平均正答率を下回った設問

⇒・・・授業改善の視点

※数値は全国の平均正答率との差

○大問1四(1)ア <伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項>

漢字(同音異義語)を文の中で正しく使う

文章の下線部を正しい漢字で書く問題「調査のたいしょう」・・・・・・・・・・ +10.1

▼大問1四(1)ウ <伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項>

漢字(同音異義語)を文の中で正しく使う

「公衆電話についてかんしんをもってもらいたい」・・・・・・・・・・ -12.3

⇒『高橋さん』が【報告する文章】を書き終えて、読み返した際に習っている漢字が平仮名になっていることに気が付き、書き直している」という状況を踏まえた上で、漢字を正しく書くことが求められる。実生活において、漢字を文や文章の中で正しく使うことができるようにする必要がある。

○大問1四(2) <伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項>

文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く・・・・・・・・ +14.6

△大問2一(1) <読むこと>

目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかく・・・・・・・・ +3.0

⇒読み手の知りたいことを調べるために読む、知的探求を満たすために読むなどの、目的に応じて文章の中から必要な情報を見つけ、内容を的確に押さえて読む力が求められる。多くの情報の中から精査・解釈して文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかくことができるようにすることが大切である。

△大問3一 <話すこと・聞くこと>

話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をする・・・・・・・・ +4.4

⇒話の展開を踏まえた上で、大谷さんにとっての畳の魅力と岸さんの質問の意図を捉える必要がある。大谷さんは「全て一点物だ」「完成した畳は同じように見えても、それぞれに個性がある」ということが自分にとっての畳の魅力であると発言している。その発言を受けて岸さんは、「自分が正しいかどうかを確認」するための質問をしようとしていることを捉える必要がある。話の展開に沿って質問できるようにすることが大切である。

○大問3三 <話すこと・聞くこと>

話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる・・・・・・・・ +11.7

【小学校算数について】

○・・・全国の平均正答率よりも3ポイント以上上回った設問

△・・・全国の平均正答率を上回ったが、まだ課題のある設問

▼・・・全国の平均正答率を下回った設問

⇒・・・授業改善の視点

※数値は全国の平均正答率との差

△大問1 (2)

<図形>

図形の性質や構成要素に着目し、図形をずらしたり、回したり、裏返したりすることで、ほかの図形を構成することができる

..... +0.5

⇒ずらしたり、回したり、裏返したりして、形を作ることがイメージできないことが考えられる。

具体物进行操作しながら図形を構成したり分解したりすることの2つの観点から図形を捉えることができるようにする。図形についての見方や感覚を豊かにすることが大切である。

▼大問2 (4)

<数と計算/数量関係>

加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる

..... -4.0

$$6 + 0.5 \times 2$$

⇒加法と乗法の混合した整数と小数の計算では、式の左から計算したり、位をそろえずに計算したり、小数点を付け忘れてりするなどのつまづきが見られる。計算の順序やきまり、小数の計算の仕方を確実に理解できるようにする。

▼大問3 (2)

<数と計算/数量関係>

示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる。

..... -1.3

【ことねさんの計算の仕方】

$$400 \div 25 = \square$$

$$\begin{array}{cc} \downarrow \times 4 & \downarrow \times 4 \\ 1600 \div 100 = 16 \end{array}$$

変わらない

だから、 $400 \div 25$ の答えの \square は、16 です。

$$90 \div 18 = \square$$

$$\begin{array}{cc} \downarrow \div 9 & \downarrow \div 9 \\ 10 \div 2 = 5 \end{array}$$

変わらない

だから、 $90 \div 18$ の答えの \square は、5 です。

【ゆいなさんがまとめたこと】

ひき算では、
ひかれる数とひく数に同じ数をたしても、
ひかれる数とひく数から同じ数をひいても、
差は変わりません。
このことを使うと、計算しやすいひき算の式で考えることができます。

(2) ひき算について書かれた【ゆいなさんがまとめたこと】と同じように、わり算についても、【ことねさんの計算の仕方】をもとにまとめると、どのようになりますか。
下の□の中に、「わられる数」、「わる数」、「商」の3つの言葉を使って書きましょう。

わり算では、

※ 解答は、すべて解答用紙に書きましょう。

このことを使うと、計算しやすいわり算の式で考えることができます。

⇒適用する数の範囲を広げていながら統合的発展的に考え、計算に関して成り立つ性質を見だし、表現することができるようにすることが大切である。

○大問4 (3)

<量と測定/数量関係>

場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断できる

..... +3.4

【中学校国語について】

- ・・・全国の平均正答率よりも3ポイント以上上回った設問
- △・・・全国の平均正答率を上回ったが、まだ課題のある設問
- ▼・・・全国の平均正答率を下回った設問
- ⇒・・・授業改善の視点

※数値は全国の平均正答率との差

▼大問1二

<読むこと>

文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えることができる・・・ - 1. 0
 ⇒文章を読んで内容を捉える際には、文章の内容や構造を理解したり、その文章の特徴を把握したりしながら、目的や必要に応じて情報を過不足なく選択し整理することが重要である。「全て選びなさい」という問題なので、正確に読み取る力が必要である。

△大問2一

<話すこと・聞くこと>

話し合いの話題や方向を捉えることができる

・・・ + 1. 3

場面①

この前、インターネットのニュースを見て、高齢者の中には少しの段差でも歩きづらいつ感じたり、段差に気付かずにはまったりしている方がいることを知りました。文化祭には、毎年、高齢者がたくさんいらっしゃいます。ですから、体育館→向かう通路などに、「段差に気を付けてください。」と書いた紙を掲示してはどうでしょうか。

倉田さん 西野さん 山下さん

ネットにそのようなニュースが出ていますね。掲示物で注意を促すのはよいアイデアだと思います。例えば、校内に「土足禁止」という掲示物がありますが、展示や発表を見に来てくださる方に対する言葉の使いかたとしては、あざわかしくないと思います。別の表現にはどうでしょうか。

そうですね。段差への注意を促す掲示物を作ることにしましょう。「土足禁止」をどのような表現に直すかについては、話し合わないといけませんね。以前から、私も気になっていました。

場面②

山下さんも気になっていたんですね。それに、例年、展示や発表の場所が校内に点在しているので、見て回る経路の例を示した紙を配るとよいと思います。

倉田さん 西野さん 山下さん

賛成です。展示や発表の場所は美術室や体育館など校内のあちこちにあるので、長い距離を移動することに負担を感じる方がいると思います。具体的な経路の例は、展示や発表の場所が決まってから検討しましょう。それでは、今日の話し合いはここまでですね。

ちょっと待ってください。具体的な経路のことについては倉田さんの言うとおりでありますが、今回出されたことの中で、まだ、どうするか決まっていらないことがあります。

場面③

② 第二中学校の生徒会員の山下さんらは、地域とのつながりを大切にした文化祭にするために、まず、話し合いの第一歩です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。場面①から場面③は、連続した場面です。

① 話し合いの第一歩

② 話し合いの第一歩

③ 話し合いの第一歩

④ 話し合いの第一歩

⑤ 話し合いの第一歩

⑥ 話し合いの第一歩

⑦ 話し合いの第一歩

⑧ 話し合いの第一歩

⑨ 話し合いの第一歩

⑩ 話し合いの第一歩

⑪ 話し合いの第一歩

⑫ 話し合いの第一歩

⑬ 話し合いの第一歩

⑭ 話し合いの第一歩

⑮ 話し合いの第一歩

⑯ 話し合いの第一歩

⑰ 話し合いの第一歩

⑱ 話し合いの第一歩

⑲ 話し合いの第一歩

⑳ 話し合いの第一歩

㉑ 話し合いの第一歩

㉒ 話し合いの第一歩

㉓ 話し合いの第一歩

㉔ 話し合いの第一歩

㉕ 話し合いの第一歩

㉖ 話し合いの第一歩

㉗ 話し合いの第一歩

㉘ 話し合いの第一歩

㉙ 話し合いの第一歩

㉚ 話し合いの第一歩

㉛ 話し合いの第一歩

㉜ 話し合いの第一歩

㉝ 話し合いの第一歩

㉞ 話し合いの第一歩

㉟ 話し合いの第一歩

㊱ 話し合いの第一歩

㊲ 話し合いの第一歩

㊳ 話し合いの第一歩

㊴ 話し合いの第一歩

㊵ 話し合いの第一歩

㊶ 話し合いの第一歩

㊷ 話し合いの第一歩

㊸ 話し合いの第一歩

㊹ 話し合いの第一歩

㊺ 話し合いの第一歩

㊻ 話し合いの第一歩

㊼ 話し合いの第一歩

㊽ 話し合いの第一歩

㊾ 話し合いの第一歩

㊿ 話し合いの第一歩

⇒話し合いをする際には、誰と何について話し合うのか、何のために話し合うのかを理解し、今は何について話し合っているのかを捉え、それに応じて話すように指導することが必要である。なお、国語科で育成する言語能力については、各教科等における言語活動の更なる充実に資するものになるよう、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図ることも大切である。

○大問2三

<話すこと・聞くこと>

話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ

・・・ + 3. 4

○大問3二

<書くこと>

伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く

・・・ + 3. 7

△大問4

<伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項>

語の一部を省いた表現について、話や文章の中での適切な活用の仕方を理解する・・・ + 1. 2
 ⇒表現する際に、相手意識をしっかりとらせる指導が必要である。語の一部を省略した表現の使用が可能であるのは、伝えたいことと異なる意味で受け取られない状況の時である。実際の場面で、用いる際に必要な配慮がないかを考えるように指導することも考えられる。

【中学校数学について】

○・・・全国の平均正答率よりも5ポイント以上上回った設問

▼・・・全国の平均正答率を下回った設問

⇒・・・授業改善の視点

※数値は全国の平均正答率との差

▼大問2

<数と式>

簡単な連立に現一次方程式を解くことができる

・・・・・・・・ -0.3

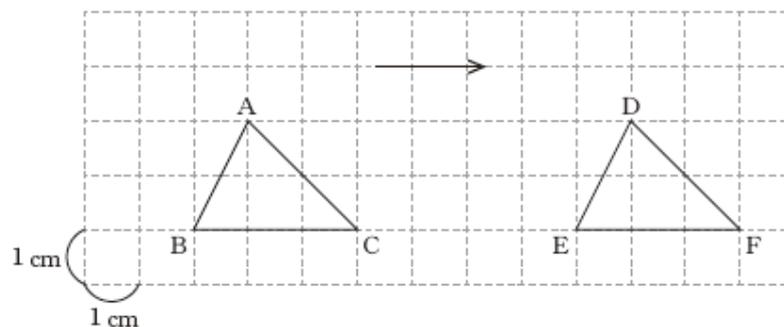
▼大問3

<図形>

平行移動の意味を理解している

・・・・・・・・ -0.7

- 3** 下の図で、 $\triangle DEF$ は、 $\triangle ABC$ を矢印の示す方向に平行移動したものです。 $\triangle DEF$ は、 $\triangle ABC$ を矢印の示す方向に何 cm 平行移動したものですか。その移動の距離を求めなさい。



⇒誤答として「4」という解答が想定される。平行移動は、移動する前と後の図形の対応する点同士を結ぶ線分の長さが等しい性質をもつ。このことを実際の図を見ながら理解できるようにすることが大切である。三角形の平行移動では、3組の対応する点の組があるので、1組の対応する点同士を結ぶ線分の長さを測ったら、他の組でも測り、その値を確かめるといった、測った値が正しいかどうかを検討する活動を生徒自らが行えるようにすることが大切である。

▼大問4

<関数>

反比例の表から、 x と y の関係を式で表すことができる

・・・・・・・・ -1.6

⇒「 $y = -6x$ 」という誤答があった。これは、表から x 、 y の値の組 $x = 1$ 、 $y = -6$ の1組だけを取りあげ、 y が x に比例する関係であると捉え、式をつくったと考えられる。式をつくった後に、この式が正しいかどうかを確かめるために、表の $x = 1$ 、 $y = -6$ 以外の x 、 y の値の組を取り出して、式に代入し検討する活動を自分で行えるようにしたいと考える。

▼大問7 (2)

<図形>

反例の意味を理解している

・・・・・・・・ -0.7

⇒図1の場合の予想した事柄の証明に用いた仮定と結論が、図2の場合もそのままであると捉えている誤答があった。図形の指導においては、命題が常に成り立つことを示すばかりではなく、常に成り立つとは限らないことを説明できるようにすることも必要である。

○大問8 (1)

<資料の活用>

資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる

・・・・・・・・ +6.1

【中学校英語について】

○・・・全国の平均正答率よりも5ポイント以上上回った設問

▼・・・全国の平均正答率を2ポイント以上下回った設問

⇒・・・授業改善の視点

※数値は全国の平均正答率との差

▼大問5 (2)

＜読むこと＞

日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を正確に読み取ることができる

・・・・・・ - 2. 7

⇒本問題では、take pictures の意味を取り違えることなく、birds in the tree, taking pictures, a man with a bag の3つの語に着目できるようにすることが大切である。簡単な語句で書かれた数文程度の英語を読み取るためには、書かれているものの内容や、必要とする情報を取り出すことができる力を身に付けさせる必要がある。

▼大問7

＜読むこと＞

まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解することができる・・・・・・ - 4. 0

⇒1文ずつの英文の意味は分かっていても、英文全体の要旨をつかむことができない生徒は多い。指導に当たっては、繰り返し用いられている語(句)や問いかけなどの手掛かりを基にして、最も大切な語句や文を選ばせたり、各段落の働きを理解させたりすることが重要である。

○大問9 (1) ②

＜書くこと＞

文の中で適切に接続詞を用いることができる

・・・・・・ + 5. 6

▼大問9 (2) ②

＜書くこと＞

一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くことができる・・・・・・ - 3. 0

⇒会話の中から時制を判断し与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりするなどして、会話が成り立つように英文を正しく書く指導が必要である。

○大問9 (3) ① <書くこと>

与えられた情報に基づいて、
3人称単数現在時制の肯定文
を正確に書くことができる

(3) 次の表の①から③は、ある女性に関する現在の情報を示しています。これらの情報を用いて、彼女について説明する英文をそれぞれ書きなさい。

①	出身	Australia
②	住んでいる都市	Rome



・・・・・・ + 7. 9

▼大問9 (3) ② 同上 <書くこと>

・・・・・・ - 8. 0

⇒誤答例としては、She live in Rome. She live is Rome. I live in Rome. があった。コミュニケーションの目的や場面、状況のある言語活動において、様々な個別の知識を活用させて文を書かせることを授業の中に位置づけるようにする必要がある。また、生徒の誤りについて生徒自身に考えさせるなどの指導を繰り返すことを通して、正しく書くことができるようにする。

全体を通した今後の対応について

学校訪問等で新潟市の授業づくりを周知するとともに、S-P表の活用等により、各校の児童生徒の実態に合わせた学力向上の具体的取り組みが進むように引き続き支援していく。